

SAKURA

2011.2 February No. 226

**CONTENTS**

- |                 |
|-----------------|
| 01~09/ 特集 卒業    |
| 10/ 留学を通して感じたこと |
| 11/ ウィンタースクール   |
| 12/ インフォメーション   |

**卒業に寄せて**

学校法人ノースアジア大学  
ノースアジア大学・秋田栄養短期大学

理事長 小泉 健  
学長

本学園を卒業する皆さん、また保護者の皆様へ、学園を代表して心よりお慶びを申し上げます。マサチューセッツ農科大学の学長であったウィリアム・クラーク博士は、北海道の開拓に従事する青年を育成するために、現在の北海道大学の前身である札幌農学校に赴任し、教頭を務めました。学生であった内村鑑三は、クラーク博士のことを学問に対する興味を持たせるような教育をする力のある人だったと語っています。

「Boys, be ambitious」。この言葉は、クラーク博士の離任にあたって見送りにきた学生に向けたものだといわれています。この有名な「少年よ大志を抱け」と言う台詞は、正確に訳せば、「学生諸君、高い志を持とう」という意味です。私も皆さんに「志を高く持つて、物事に取り組んでほしい」ということを申し上げたいと思います。皆さんは、本学園で共に学問を学ぶ仲間と新しい発見や感動を分かち合っていただきたい。そして、しっかりと地に足の着いた学問をしながら、自分の人生を真剣に考えてきました。これまで積み重ねた一つひとつが、将来の自分へつながって行くことを忘れないでいただきたい。本当の意味での勉強はこれから始まります。

皆さんは、自分の決めた道へと進むことになりますが、社会に出る人たちにとっては、学生時代とは違い、どのような仕事に就こうとも、その仕事に責任というものが生じてきます。しかし、一面において、自分がしたいことを自分の意思で行うことができます。その際に、是非、損か得かだけで自分の行動を判断しないで欲しいのです。仕事から得られる報酬は、決してお金ではなく、そのことを成し遂げたときの喜び・充実感や、自分が行ったことを喜んでくれる人がいる、感謝してくれる人がいる、ということなのです。それは、前例が無く、新たな価値を見つけるような困難なことなのかもしれません。例え、手探りであったとしても、前向きな気持ちで一步を踏み出してほしいのです。

皆さん、各界で生き生きとして活躍することをご祈念申し上げます。

前田ゼミナールに所属する三浦さんは、4年生になってすぐ希望の金融機関から内定を得ました。前田ゼミナールでは皆仲が良く、履歴書の書き方やエントリーシートの書き方など、自分の経験からゼミの仲間にアドバイスすることもあったそうです。入学時から就職を意識して資格取得に力を入れてきたという三浦さんは、日商簿記検定試験の2級、ファイナンシャルプランナーの3級を取得。早い段階で希望の企業から内定を得ることができた理由を、「学業やスポーツ、アルバイトなどの経験を積み重ねたことで、充実した学生生活を送ることができたこと」ではないかと振り返りました。

三浦さんは前田先生について、「普段はまじめですが、懇親会などでは親しみやすい先生です」と話してくれました。

前田ゼミナールは、学年を越えて交流があり、ソフトボール大会などでも皆が協力して試合に参加しました。他学年と合同で、北海道でゼミナール研修を行った時には、幹事を中心に皆で意見を出しながら自分たちでプランを立て、特産品などを観察してきました。

ゼミナールを通して得たことは、自主性がついたことと、自己管理ができるようになったことだと話してくれた4年生もあります。ゼミナールでは、サブプライムローン問題をテーマに、役割分担をして皆でいろいろな角度から問題を考え、狭い範囲でも、分かりやすく説明できるように努めました。さまざまな経験をすることができ、充実していたゼミでの仲間は、卒業後もつきあえる友人になったと感じているようです。



### 学生生活を振り返って 経済学科 4年 三浦 拓也

私がノースアジア大学に入学してからあっという間に4年という歳月が過ぎようとしています。学生生活を振り返ってみると、この大学での経験がこれから社会人生活を迎えるにあたってとても有意義なものであったと感じています。

学業の面では入学当初に資格を取得しようと決意し、日商簿記検定の勉強に取り組みました。大学の講義で初めて簿記について勉強しましたが、私にとってはとても新鮮に感じられ、先生方から手厚い指導をしていただけたことや自分で何かを身につけようという思いから明確な目標を設定できただけが勉強のモチベーションの持続につながったのだと感じています。

また、軟式野球部に所属し、日々練習に打ち込んだことや、厳しい予選大会を勝ち抜き、チームの目標としていた全日本大会や東日本大会に出場できたことは忘れられない思い出であります。3年生の時には選手としてだけではなく、奥羽地区連盟委員長として大会の運営や管理に携わり、周りからはあまり目立たない裏方の仕事の厳しさや大切さを知ることができたことも貴重な経験となりました。

この他にもアルバイトや就職活動を通じて様々な世代の人と出会うことができ、サポートをいただきながら学生生活を送ることができました。卒業後はお世話をなった方々への感謝の気持ちを忘れずに働き、地域のために貢献していくたいと思います。

### ご卒業を祝して

経済学部 講師 前田 直哉

めでたくご卒業を迎えた皆さんに心よりお祝いを申し上げます。

大学時代に専門知識や教養を身に付けるという意味での「貯金」はどれだけできたでしょうか。この「貯金」が多ければ多いほど、社会人生活に役立つことは間違ひありません。しかし、その「貯金」はいずれ消尽するでしょうから、新たな「貯金」を作るよう心掛けてください。専門知識や教養を深める最も有効な手段は読書です。そこでは是非、読書を習慣化してください。読書を通じて何らかのヒントが得られることでしょう。

何らかのヒントが得られるという意味で「読書の習慣化」と同様に重要なのは知己を深めることです。社内外で交流の場を積極的に作るよう心掛けてください。これは社会人としてのコミュニケーション能力(交渉力を含む)を高める上でも必要です。

心と体のバランスを取ることもまた大切にしてください。なるほど突き詰めることは社会人として、延いては人間として成長する上で重要かも知れませんが、それによって両者のバランスが崩れ、心身を壊してしまっては何もなりません。業務の効率性を維持する上で心身をしっかり休めることは必要不可欠なのです。

皆さんの新しい社会でのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



「ゼミ生は、まとまりがよく、課題の解決を分担して行ったようです。そのひとつが卒業試験への取り組みでした」と語る広瀬大有先生。卒業試験など学生が主体になって対策を行って、ゼミ生全員で検討し問題を解いていました。

「ゼミでは、学生のプレゼンテーションが毎週あり、当初はすごく大変でした。そこで、テーマの捉えかた、他のゼミ生に解りやすく内容を伝えるにはどうしたらよいのか、意見交換などがコミュニケーション能力を高めてくれたと思います」と話す菅原亜由美さん。学内外での勉強のほかにも、ゼミナール協議会の活動、アルバイトなど生活にメリハリがあって、いろいろなことを得ることができ、充実した4年間を送ることができたとのことです。※2、3年次はマーケティング論ゼミナールに所属

最も印象に残っていることは、ゼミナール協議会です。一昨年、本学で開催した東北・北海道学生経済ゼミナール大会に会計局長として責任ある立場で運営に携わった経験から、自分でやってみなければと前向きに気持ちが変わったようです。この経験は、その後の就職活動でも生かすことができたと話しました。

卒業後の目標は「この人に対応して欲しいという人材になりたい。お客様が欲しているものに応えられるように成長したいと思っています」と話してくれました。

広瀬先生からは、「菅原亜由美さんというオンリー・ワンの人材になることを期待しています。他の学生も自分の特性を生かして頑張ってほしい」と一層の活躍を期待していました。

## 大学生活で得たもの

経済学部 4年 菅原 亜由美

卒業を間近にし、この四年間の大学生活を振り返ると色々なことがありました。

その中で最も印象深いのは就職活動です。

それは、辛い時期であったと同時に、今までの自分を振り返り見つめ直すことが出来る貴重な時期だったと思います。

私は大学入学当初、具体的に進路について考えていませんでした。そのため大学生活では自分自身の好奇心を大切にし、やってみたいと感じた気持ちに常に正直に全力で行動してきました。サークル活動に、韓国料理店でのアルバイト、オープンキャンパスの手伝いなど、様々な経験の中で失敗と成功、また多くの人・価値観との出会いを繰り返し、沢山のことを学んできました。私は就職活動のための大学生活ではなく、好奇心に全力でチャレンジしてきました。そのことが多くの経験と価値観との出会いを作り、就職活動の際に自分の道を開くものとなってくれました。

たとえ他人に評価されなかったとしても、無駄だと思えることでも、それが自分の糧になるということを就職活動の中で気付くことが出来ました。

これからは社会人として、秋田という地域社会の活性化に貢献出来るよう頑張りたいと思います。

## 音楽は人生の必需品—歌詞の中に心の糧を見出す

経済学部 教授 広瀬 大有

わたくしは授業の合間にCDで音楽を流したり、雑談します。学生たちは、授業中、一生懸命勉強します。だから、音楽、雑談で気分をリフレッシュさせて、再び学習意欲を高めて欲しいのです。この学び舎を巣立つ皆さんも、これからは一生懸命仕事をすることでしょう。何事でも熱心に取り組めば取り組むほど休憩とか遊びが必要になります。今後は、自分に合った気分転換の方法を是非身につけて欲しいと思っています。

音楽は、人が生きていく上で非常に重要なものです。「世界に一つだけの花」というSMAPの歌があります。この歌詞にあるように、みんなが世界でただ一人だけの存在なのです。皆さんもいはずはただ一つだけの花を咲かせて欲しい。オーナーの花を咲かせるためには、努力することです。なお、心身の健康を維持することも大切です。「急がば回れ」という言葉が示すとおり、夢や希望を達成するには時間がかかります。目標にたどり着くのは遅くなても良いのです。皆さんには、着実に夢や目標を達成して、良い人生を送って欲しいと思います。何が自分にとって良い人生なのか、それは一人ひとり違うものです。音楽を心の糧の一つとして、「一期一会」を大切に、困難があっても諦めずにチャレンジして欲しいと願っています。

## 法学士としての誇りを大切に

法学部講師 中條 晋一郎

卒業おめでとうございます。このゼミナールで共に学んだ日々は、私にとっても、大学教員としてこれから生きていく中でのかけがえのない財産です。

私はかねてから、自分のゼミナールを既存の知識や理論や思想にのみとらわれず、若者のもつ柔軟で自由な発想を臆せずに發揮しながら議論できるようなものにしたいと考えていました。それはそもそも、刑事政策学にそのようなスタンスが求められているからでもあります。その結果、卒業までに議論したテーマは 20 を越え、真剣に、時にはユーモアあふれる議論ができました。

また、高杉祭への焼鳥屋の出店やシーズンごとに開催した親睦会など、勉強以外に色々とイベントを行えたのも、皆さんがメンバーだったからだと思っています。本当にありがとうございます。

さて、本学法学部で 4 年間学んだ皆さん一人ひとりに、各分野の法律を学び、厳しい卒業試験を経て、「法学士」という学位を取得して社会に出て行くことに、誇りと自信を持ってもらいたいと思います。「法を学ぶ」ということを、「法律の条文を理解すること」と考えている人が多いように思いますが、それでは十分ではなく、問題となっているある事実をどのように的確に捉えるか、そして、その問題を解決するため、どのように法を適用するのかという、「法的なものの考え方を身に付けること」であると捉えるのが適切だと考えます。事実、皆さんには、条文そのものを読むよりも、判例や具体的な事件を検討する方に多くの時間を費やしてきたと思います。皆さんも 4 年間行ってきたそれらの訓練は、現実社会の中の様々な出来事に遭遇した時、適切な価値判断に基づき、自己決定をする力を培うためになされたものです。

皆さんが進む分野・業界は様々だと思いますが、どこへ進もうとも、本学で培ったスキルを存分に發揮し、リーダーとして活躍されることを心より祈念致します。



大学生活で得たもの	刑法ゼミを振り返って	刑法ゼミで学んだこと
法律学科 4年 斎藤 正晴	法律学科 4年 高村 秀平	法律学科 4年 谷津 裕介
<p>大学で過ごした4年間は非常に充実したものでした。この大学生活で得たものは、この先必ず私の力になると思っています。</p> <p>大学に入学して初めて本格的に法律を学び、またゼミナールに所属することで、自分の知らないことを学ぶことの大切さ、楽しさを知ることができました。特にゼミナールでの講義を通して物事に対して深く考えるようになったと感じています。この他にも、友人達や先生方と接することで入学当初よりも一回り成長できたのではないかと思います。</p> <p>これから社会人として生活していく中で、この4年間の大学生活で得たものを生かし、日々の努力を忘れずに頑張っていきたいです。</p>	<p>この刑法ゼミナールでは、主に 10 人 1 グループに分かれ、グループディスカッションを行ってきました。暴力団を根絶するためにはどうすればよいか、振り込め詐欺をなくすためには何をすればよいかなど、様々な対策について討論しました。その中で私が特に興味を持ったのは、死刑制度についてでした。ゼミ生が存置派と廃止派に分かれ、それぞれの意見をぶつけ合い、結論を導いていく過程は楽しく、今でも印象に残っています。</p> <p>刑法ゼミナールは、警察官を目指す私にとって、犯罪について深く考える良い環境でした。このような環境を与えて下さった中條先生に感謝しています。</p>	<p>ノースアジア大学に入学してからあっという間に 4 年間が過ぎようとしています。大学生活では様々なことを学ぶことができましたが、特にゼミナールで学んだことは今後の人生に活かしていくことばかりだと思っています。</p> <p>私が所属していたゼミナールでは刑事政策学の諸問題を学び、学生が主体となり、毎回違うテーマで討論するという形式で行われていました。そこでは、相手の話を聞いた上で自分自身の意見を述べる大切さ、自分自身の考えをきちんと持ち、発言することの大切さの 2 つのことを改めて学ぶことができました。また、討論を通して様々な見解を聞いたことにより、思考の幅を広げることができました。</p> <p>その他、ゼミナールでは秋田刑務所への参観も行われ、実務の様子を自分自身の目で見て学ぶという学習も行われました。</p> <p>私は 4 月から埼玉県警察の警察官になりますが、本学で 4 年間学んできたことを活かし、地域の人々の安心や安全を守るために努力を怠らずに働いていこうと強く考えています。</p>

学生たちのコミュニケーション能力と課題解決能力の向上を目標に活動を行ってきた伊藤ゼミナール。

ゼミでは、学生一人ひとりが自分で勉強したいと思う課題を決めて取り組む方法をとっています。伊藤先生からは、「10人という少人数のゼミなので、一人ひとりの学生にあわせて対応することを心がけて、言葉の掛け方などを工夫しました。まずは学生自身が考え、行動するように指導しました。2年間で、そして卒業後もさらに成長できるように、将来を見据えて接してきました」との話に、「だいぶ鍛えられました」と学生からの声がでました。

このように先生と学生との距離が近く、学生たちのまとまりが良いゼミナールですが、ゼミ生の工藤優二さんと青木広美さんは、先生の最初の印象を「厳しい先生」と感じたようです。その後の講義を受講してから「この先生のゼミならば自分を高められる」と感じたと話してくれました。

2人の今後の目標について聞いたところ、「子どもの頃の経験があって、栄養士を目指しました。集団生活の中で栄養のバランスが取れた食事を提供できるようにしたいと思います」、「短大での勉強を基に、もっと実力を高めて、子どもから家庭へと食の大切さを広めたいと思います」と話してくれました。

伊藤先生からは「自分の7割の力で課題を解決できるだけの実力をつけてください。そのためには若い時に全てのことについて全力で取り組むこと、そして知識や教養を高めることが大切です。余裕が出てもおごらず、いざというときに力を発揮できるようにして欲しい」と一層の飛躍を期待する言葉がありました。



## 2年間を振り返って

栄養学科 2年 工藤 優二

短大で過ごした2年間を振り返ると、本当にあつという間だった気がします。入学当初は、専門的な授業についていけるのか、また周りとコミュニケーションがとれるのか、不安だらけでしたが、だんだん慣れてきてから栄養に関する知識を覚えていくのが楽しくなりました。特に私は実験が好きで、食品学や生理学など普段体験できないような実験ばかりだったので、積極的に取り組みました。また、給食運営実習では班長として班の作業手順をまとめたり、実際作業している時も周りに気を配りながら自分の作業をしていました。この2年間で私は様々なことを学びました。それは栄養士としての知識だけでなく社会人として大切なものだつたり、自分を大きく成長させてくれるものだったと思います。私はこの2年間で培ったものを生かしてこれからも頑張りたいと思います。

## 短大生活を振り返って

栄養学科 2年 青木 広美

短大生活を振り返ると、とても短く、そしてとても内容の濃い2年間になつたと思います。入学前から栄養学に興味を持っていたため、講義で栄養に関する知識を深めていくことで、楽しみながら勉強をすることができました。また、実習や実験では講義で学んだことを生かして実践することができ、より理解が深まりました。2年次のゼミナールでは、「大学生の食生活について」というテーマで調査・研究を進め、これまで学んだことと関連づけるなかで様々な発見があり、楽しく学習することができました。

短大で栄養や調理に関する知識や技術を身に付けていくなかで、卒業後は学校栄養士として子どもたちに食べることの大切さを教えていきたいと思うようになりました。この目標を定めてから、就職活動にも力を入れるようになり、自分を見つめ直したり、社会に出る前の準備をしたりと、様々なことを学ぶ期間となりました。学校栄養士を目指すうえで、警察官・公務員試験対策室を活用し、とても充実した環境で公務員試験の勉強ができました。そして、多くの先生方の熱心なご指導のおかげで合格することができました。

今後も学ぶことは山ほどあると思いますが、短大で学んだことを生かし、栄養士として成長していきたいです。

## 卒業する皆さんへ

栄養学科 講師 伊藤 千夏

皆さん、ご卒業おめでとうございます。

4月から社会人として新たなスタート地点に立つわけですが、一人前の社会人、栄養士になるためには、社会にてから周囲の人々に育ててもらうことが大切であるということを忘れないでください。また、栄養士に限らず仕事は周囲の人々と関わることによって成立します。人付き合いのストライクゾーンを広げ、年代や立場、職種の異なる方々と一緒によい仕事ができる社会人になってほしいと思っています。

そして、社会では今まで以上に問題解決能力が求められます。皆さんは短大での講義、実験・実習、ゼミナール、友人関係などを通して様々なことを勉強し、問題解決能力を培ってきたと思います。さらに成長するために、もっと知識や教養を深めてください。様々なことにチャレンジしてください。ひとは自分の持っている知識や教養、経験の範囲でしか、物事を考え解決することができないからです。人生に無駄な勉強は1つもありません。無駄にするかどうかは自分次第です。

最後に、卒業したら、皆さんと私は学生と先生ではなく、栄養士の後輩と先輩です。先輩は先生以上に厳しい目であなた方を見ています。先輩はこちらから教えることはしません。ですが、先輩はいつも皆さんのことを見守っていますし、後輩が自分を追い越して大きく成長する姿を早く見たいと思っています。近い将来、私を追い越した皆さんに会えるのを楽しみにしています。

## 自立した社会人となるように成長することを期待

看護学科 准教授 日景 真由美

看護師として、専門知識と技術を身につけることは仕事をする上で基本として必要なことです。それに加えて、患者、患者の家族を支え、先輩の看護師を含む医療スタッフとしっかりとコミュニケーションを図って信頼される社会人となってください。また、その際には、常に謙虚な姿勢で仕事に向かってほしいと願っています。

看護師が必要とする知識や技術は、日々進歩しており、職場の中で新たなことを学ぶことが求められます。その上で、患者の声をしっかりと受け止め、それに応えるよう説明できる知識を持ち、コミュニケーションの力を高めてください。

皆さんには、自立した社会人となって活躍してほしいと願っています。仕事の中で作業の指示を待つてそれをこなすだけでなく、自分から課題を見つけ、自らが解決できるように取り組んでください。

このゼミナールでは、課題を見つけて解決できるように取り組むという点に重きをおいて学生たちと関わってきました。一つひとつの積み重ねは、皆さんの目標を実現するための成長につながっているのです。



## 身近な看護師として信頼されるように

看護学科 4年 小林 智恵美

大学では多くのことを勉強できたと思います。そのひとつにコミュニケーションのとり方を工夫し、大切にすることを学びました。

コミュニケーションは病院を利用する人、医療スタッフとの信頼関係を築くため必要なことで、その人がどんなことを考えているのかを知るための情報収集の場もあります。また、利用する人が発する言葉から容態などに気づかなければならぬと感じます。大学の授業では、それを学びましたが、実習の現場ではなかなか実践できませんでした。

もっと言葉のかけ方を考えた上で、利用する人を注視して表情や会話の中からしっかりと情報を得るようにしたいと思います。今は、実習で感じたことを大学生活の中で意識するように心掛けています。看護師として絶対に必要な要素だと感じているのでこのことをもっと高めていきます。

卒業後は、ひとりの人間としてこうありたいという思いがあります。それは、困っている人や悩んでいる人を手助けし、支えられる人でありたいという思いです。利用者にとって、身近な看護師、病院でなければ地域の人達は利用していただけないとと思うので、地域の人達から信頼されて、気軽に声をかけられる看護師になりたいと思います。

## 看護師としての気配りを忘れずに

看護学科 4年 佐藤 依純

看護師を目指してこの大学に入学しました。看護の勉強をする中で、人と接する仕事が難しいことと、反面それを楽しいと思うことを感じました。また、高校までと違い、正解が複数あることや人によっても正解が違うことに不安を感じ、戸惑い、悩んだ時期がありました。

しかし、利用する人が快適に過ごせるように、一人ひとりの考え方や要望との違いを受け止めて利用者の話に耳を傾け、理解に努めるよう心掛けることが大切であると考えるようになりました。そのため、少しでも多くの人々と話し、卒業後に戸惑わないように利用者へ積極的に声掛けをしました。話しかけるだけでなく、利用者をよく観察して何を望んでいるのか、何を手助けすれば少しでも不安が解消されるのかということに重点を置いて取り組みました。

実習では力不足でできなかつたことも多く、病気のこと、ケアのことなどもつと勉強をしなければならないと改めて感じました。

卒業後の目標は、利用する人の気持ちを察して支援できる看護師になることです。これは実習や自分が入院したときの体験などから考えたことで、少しでも利用する人の心が休まるようにしたいと思っています。まずは、自分が担当する人の声にしっかりと耳を傾けて、その課題を解決できるように少しづつ成長していきたいと思います。

## 福祉社会を支える人材となるように自分を高めてください

福祉学科長 教授 成田 猛

看護福祉大学でいろいろな改革を試みた成果が出てくるのが今回の卒業生からだと感じています。

福祉学科では、教員が学生を個別に指導し、専門、教養の知識を高めるように環境を整えて、勉強に集中できるようにいろいろな方策を講じました。現在の4年生の中には、国家試験に向けて、今年度4月から教員の研究室を訪問し、自主的に勉強に取り組んでいる学生もいます。入学後からの指導で、勉強への意欲や常に勉強する習慣がついてきました。この行動から、学生たちはこれから人生を切り開いていくためには自ら努力することが必要なのだということを学び得たと、感じています。

今年度卒業する学生たちは、福祉関係の法人の幹部候補として採用されることが多くなっています。卒業した先輩たちの

努力が本学への評価となっていることの表れでもあります。ゆくゆくは起業するなど福祉社会をリードできるような人材になるように期待しています。また、皆さんのがこれから携わる仕事の中で自分を高めて、いつかは教員として大学に戻り、新たな福祉社会を支える人材を育てる人になってほしいと思います。

大学での4年間で勉強したことを生かして常に謙虚な気持ちで臨み、人に対して礼を失すことの無いよう利用者、利用者の家族、先輩職員などと信頼関係を築いてください。



### 福祉に携わる人として 物事に常に誠実に接する

福祉学科 4年  
和泉 剛毅

福祉の基礎となる知識をしっかりと学ぶことが出来たと思います。

大学で学んだことをもとに、実習に臨みました。当初は、利用者がどのようなサービスを受けたいのか、またどう接することが利用者にとって良いのかを考えすぎて戸惑うことばかりでした。

しかし、実習を重ねることで一人ひとりの接し方を変えて、少しずつ改善するように心掛けました。その中で、施設利用者へのサービスが過多になり、自分が良いと思ったサービスを否定されないように利用者を見つめて対応するようになりました。実習先の職員を観察し、その行動を基準にして自分はどのようにるべきなのかを選択していました。実際に現場に出てから大学で勉強したことを実感することが多く、実習で体験したことが自分にとって大きかったように感じます。

卒業後は、ひとりの社会人として物事に常に誠実に接していくと考えています。特に利用者、家族、施設の職員など対人関係の連携を重視しなければならないので、相手に不快感を与えないようにしたいと思います。また、今後一緒に働く方々から信頼されるようにしっかりと仕事をしたいと考えています。

実習を通じて  
学ぶ姿勢や  
人との接し方などの  
変化が生まれる

福祉学科 4年  
佐藤 啓太

学校で得た知識を実習の場で実践したことが、学習の成果を高めてくれたと思います。それを実感したのは、学外での実習のことです。学校内の実習では、難なくできていたことも学外実習の現場ではできなかったこともあります。自信を無くしそうになりました。

自分が良いと思った行動も、実習先の職員からやり方を変えてはどうかとの意見をいただいたこともあります。それらは、自分の視野を広げる貴重なアドバイスとして前向きに捉えて、その後の実習に取り組みました。

実習後は、大学での勉強も変化しました。例えば、自分でまとめた課題レポートの内容に対して、友人からもらった意見を取り入れて、より良いものを作るように変わって行きました。

卒業後は、福祉に携わる者として利用者やその家族などのコミュニケーションを大切にしたいと考えています。いろいろな意見をいただき、話し合いの中からその人にとって最も良いと考えられるサービスを提供できるようにしたいと思っています。また、自分一人では解決できない問題も周囲と協力することによって改善できることがあるはずです。仕事の中に課題を見つけて少しでも良い方向に改善できるように取り組みます。そして、一緒に働く方々に良い影響を与えられるような社会人になりたいと思います。

## 思い出を「力」に



嬉しく思います。

卒業する皆さん、卒業にあたって多少の寂しさを感じているとすれば、それは、この明桜高校で、いい出会い、いい高校生活があったということ

年賀状で近況を知らせてくれる教え子が書き添えてくれた一言の中に、当時の同級生の近況も見えることがあります。そんなとき、この人は、いい高校時代を過ごし、そして自分も教員としてその中に立ち会えたことを

しよう。それは、とても幸せなことであります。皆さんにとってかけがえのない財産なのです。

昨年、卒業式会場から退場していく卒業生の中に、目を真っ赤にはらした野球部員の姿を見て、私ももらい泣きをしました。今日だけは、明桜での三年間をしっかりと記憶にとどめ、しかし、明日からは次の進路先での新しいスタートを切る覚悟を決めていけるかのような、凛とした姿に見えたのです。

いい思い出は、人が生きる上で力を与えてくれるものです。明桜での思い出を幾度となく思い出してください。そのことで、一緒に過ごした時間が、さらに価値のあるものとなるはずです。

## 高校生活を振り返って



私が高校三年間で学んだことは、自分は自分が思っている以上に意外に出来ないことが多いということです。いろいろな物事に挑戦していく上で自分に欠けている能力や思考が必要とされることがありました。チアリーディング部を運営していくにあたって、何もない

ところから創作することは自分の能力の不足を痛感しました。しかし、同時に今まで自分が友達や家族、先生に支えられてきたということがわかりました。また、様々な壁を乗り越えることが出来たのも友達や家族、先生の支えがあったのはまぎれもない事実です。

大学進学をする私ですが、さらに自分の能力を最大限に引き出すことのできるよう、高校生活同様に充実した日々を過ごしたいと考えています。最後に、支えてくれた友達や家族、先生方に感謝を述べたいと思います。ありがとうございました。

## 三年間



私は、埼玉県から明桜高校に入学し、全く友人のいない環境で、寮生活や部活動を経験しました。寮生活では、洗濯や規則正しい生活、健康管理など自立した生活の基本を身に付けることができました。また、時間厳守や上下関係などを通して、自宅とは違う小さな社会

だと実感しました。だからこそ、自分に厳しく成長することができました。野球部では、「球道即人道」を合言葉に、技術だけでなく、挨拶や礼儀、感謝の気持ちを忘れないといった社会人として当たり前に求められることを身に付けたり、厳しい練習の中で、諦めず最後まで自分の力でやり通すことの大切さなど、内面も磨くことができました。

大学では、この経験や身に付けたことを生かし、更に自分自身の成長を促していくことができるよう頑張りたいです。

## 高 橋 渉

## のびのび幼稚園



「未来への礎として」

園長 藤本 剛

本園の敷地内に大きないちょうの木があります。高さは20メートルにも達しようかという、まっすぐに上に向かって伸びたのっぽのいちょうです。秋には敷き詰められた無数の落ち葉が園児達の格好の遊び友達となります。昨秋、地面に落ちた銀杏は園児Kさんがおばあさんが沢山の実を薄皮までむいて、箱にぎっしり詰めて園にプレゼントしてくれました。

そのいちょうから数メートル離れた園庭には、今の園舎が完成したのを機会に寄贈されたハクモクレンの木が立っています。園の周囲に緑を増やそうと、小泉理事長がご自身の庭から移植してくださった樹木のひとつです。ハクモクレンも大きく育つ木です。旧園舎の時代から園を見守ってきた大いちょうと、新園舎の園児達を育んできたハクモクレン。とりわけ雪に包まれながら芽吹きを大きく膨らまそうとしている厳冬期のハクモクレンには、園児達の新しい巣立ちと成長とが希望に満ちて重ね合わされてきます。



のびのび幼稚園から羽ばたこうとしている卒園児の皆さん。のびのびとたくさん遊んで、その中から多くのことを学んで来たことと思います。「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず」。皆さんのが今年度から触れ始めた論語にある言葉ですね。遊びの中から学んだ「知る・好きになる・楽しむ」の三段跳びを、これから的人生にぜひ活かしてください。皆さんのが、50余年の歴史が生み出してきた多くの先輩に負けない活躍をしてくださることを、また大いちょうやハクモクレン、それに皆さんを大好きに思っているのびのび幼稚園・保育園の先生達を時折思い出してくれる事を心から願っています。



ご卒園おめでとうございます。「たくましく、凛々しく成長」した子ども達は、慣れ親しんできた「さくら幼稚園」を今、元気いっぱいに羽ばたき巣立とうとしています。

さて、さくら幼稚園では、一人ひとりの子ども達と真正面に向き合い、しっかりと抱きしめた保育・教育にあたっています。その一端は保育参観、七夕お遊戯会、運動会、園祭等その時々の行事でも公開していますが、その集大成は卒園

## さくら幼稚園



「たくましく、凛として  
巣立ちのできる保育・教育を目指して」

園長 鎌田 幸男

式で全園児が「仲間一人ひとりの思い出を語る」場面です。本年は36人の仲間の思い出を語ります。子ども達の胸には三年間一緒に過ごしてきた楽しかった思い出が、年輪になってしっかりと刻み込まれていることがわかります。一人ひとりの子ども達が、凛として目をキラキラさせて最も輝いているひと時でもあります。

幼稚園でのこうした様々な経験は「自ら学ぶ力」「協力して考える力」「生きる力」の素養となり、小学校での学習や生活に直結しています。幼稚園と小学校の連携の大切さもここにあるとされています。子ども達は、小学校でも「明るく、快活に、たくましく」過ごせるものと確信致しております。

最後になりましたが、保護者の皆様からは、言葉に言いつくせない程のご理解と多大なご支援を賜りました。深く感謝致しております。私共はこれからも一人ひとりの子ども達を大切に、そしてしっかりと抱きしめ、また保護者の皆様とのコミュニケーションを密にしながら保育・教育に一層精進してまいります。どうぞ今後共変わらぬご支援の程、お願ひ申し上げます。

子ども達の前途を心から祝福致しております。



## 自然に恵まれた秋田での10ヶ月

慶熙大学校 崔 洛栄 (チェ ナギョン)  
交換留学生



もう昨年のこと、わたしは2010年4月に秋田にきました。韓国で大学に通いながら二度とない大学生活の中、学生だからこそ出来る交換留学生制度に魅力を感じました。選抜されるまでは様々な過程がありましたが、秋田空港に到着したその時、「やっと来られたんだな！」と安心しました。

振り返ってみると、重要なことはどこではなく誰と過ごすのかだということに気付きました。ノースアジア大学の職員の皆さんや受講した科目的先生方、また様々な国の留学生たちと、留学生の面倒を見てくださっている方々に温かいぬくもりを感じました。

秋田は都会に比べると少し地味かもしれません、私はその点に心を惹かれました。自然に恵まれた静かな環境で勉強することや、ただ眺めているだけでも心が癒される景色を季節の変化と共に感じることなど、秋田でだからこそ経験できたことが沢山作れたと思います。

その中で最も記憶に残ったことは「農家民宿」です。なかなか触れ合う機会がない農家の方に直接お会いして、現在の農家生活の状況や苦悩について語り合ったり、一晩泊まりながら秋田を代表する「きりたんぽ」を

留学生たちと一緒に作って食べたり、また近くの温泉に連れて行っていただき身も心も温かい日を過ごしました。特に秋田県内で勉強している留学生たちと接する機会がなかったので、彼らと話すこと自体が私にとって新鮮な刺激でした。「井の中の蛙大海を知らず」という諺そのものでした。短い一泊二日でしたが、また一つの宝物ができてうれしかったです。

約10ヶ月の期間でしたが、生活する環境の全てが日本語に囲まれて、日本語の勉強により一層集中できたと思います。見逃していた表現やまだ足りない漢字の実力に力を入れました。また生活しながら一番重視したことはイントネーションとニュアンスでした。他の勉強ももちろん大切ですが、周囲の人が皆日本人だからこそ習えることは、やはり上記に記したおりイントネーションだと思い、毎日耳を傾けながら本場の方たちが使う日本語に少しでも近づけるよう意識しながら過ごしました。

あつという間に留学生活が終わりましたが、私の人生の中で一番大切な思い出がここ「秋田」で出来て心から感謝しています。今後、韓国に帰っても一生忘れられない秋田での経験や教訓を十分活用し、また新たな一步を踏み出したいと思います。

いつかまた会えますように。

## 私を成長させてくれた秋田の生活

慶熙大学校 朴 珍瑩 (パク ジンヨン)  
交換留学生



今秋田での大学生活を振り返ってみると、この10ヶ月間はかけがえのない思い出ばかりとなりました。私を支えてくれた良き友人や先生方のおかげで楽しく過ごすことが出来たと思っています。留学生活は私にとってあつという間で、いろいろなことを学べる良い機会でした。

ここで過ごした全ての日々は私の宝物であり、大切な時間です。自分を信じて挑戦し、そこから学んだこと一つひとつを心に刻みながら成長しました。秋田の生活は本や教科書で絶対学べないことを学べる価値のある留学経験だったと思います。

これまで日本に旅行で何回か来たことがあります、秋田については良く知らなかつたので、期待半分、心配半分でした。初めて秋田へ来て、自然豊かな環境と素朴な人情とがあいまって、快適な秋田の生活だったので、無事に留学生活を終えることができました。今思えば、私が直接ぶつかりながら得たことが最も記憶

に残り、日本語の勉強にも役立ちました。韓国に帰つても私の目で見て感じた全ては、まるでアルバム中の写真みたいに頭の中に素敵な思い出として残るはずです。

特にその中で秋田ならではの祭りである竿燈祭りで見た夜空に揺れる黄金の光は、私にとって一生忘れられない祭りでした。そして一番記憶に残る体験は秋田の農家で農業体験を行うツアーと、そこで収穫したお米や農産物をいただく収穫感謝祭ツアーです。いろんな友達と出会い、秋田で有名な料理のきりたんぽを作ったり、初めての餅つきをしたりと交流を楽しみました。私が一番行きたかった田沢湖にも行き、幸せな時間でした。幸いなことに秋田の観光名所はほとんど行くことができ良かったと思います。

秋田で学んだ経験は、今後の社会生活でも大きな力となり、前向きな姿勢で臨めると思います。これからも私を支えてくださった先生方、仲よく過ごした友人、留学生友達との絆と思い出、秋田で学んだ経験と教訓を大切にします。本当に感謝しています。

## 楽しかった交流

マネジメント学科1年 金 花



日本に来てもう1年4ヶ月も経ちました。寒いのが一番嫌いなわたしでしたが、様々な人たちの支援もあって、もう2度目の冬を迎えるました。今は寒さに少し慣れてきました。

ノースアジア大学に来て1年4ヶ月の間にほんとうに色々な思い出がありますが、その中でも一番印象に残っているのは短大の学生と一緒に日本料理を作ったことです。それは私がノースアジア大学に来て初めてのお正月を迎えるところでした。学校では留学生と日本の学生との交流のためにこの活動を準

備してくれたのです。ちょうどお正月を迎えるところでおせち料理を作りました。日本ではお正月には家族揃って食べる伝統的な料理で、その食材には一年間の幸福や健康、子孫繁栄等の願いが込められている料理でした。このような深い思いが込められている料理と一緒に作って食べるなんて考えたこともないことがでした。本当においしくて特別な料理でした。

私を含む留学生の皆が、日本の伝統的な料理を作り、日本の文化について交流して、楽しい一日を過ごしましたが、それが私たちにとって、日本の料理文化を更に理解させる機会になったのではないかと思います。このような楽しい交流をまた期待して待っています。

## 日本語初級者のサポートを務める

ウィンタースクール開講

1月17日から1月31日までの15日間、2010年度のウィンタースクールが行われ、韓国の慶熙大学校の学生17名が参加しました。

日本語と日本の文化を学ぶ授業のほか、秋田の自然や文化を学ぶフィールドトリップ、スキーやスケートなどのウィンタースポーツ体験などが盛り込まれたプログラムを実施しました。

調理実習で、きりたんぽなどの秋田の郷土料理と一緒に作った栄養学科2年の加賀谷敏さんは、「始めに切り方の見本を見せたら、その通りに切ってくれ、スムーズに作業が進み安心しました。きりたんぽやえびすもちは好評で、上新粉のことなどについて質問されました。調理を進める中で様々な質問をされ、日本では当然のこととして認識していることが、韓国ではそうではないのだということに気付きました。できれば韓国料理の作り方などを教えてもらいたかったと思います」と語りました。

また、茶道体験でお点前を披露した観光学科1年の安藤郁美さんは、「外国の方がお客様ということで、始まるまでは緊張しました。韓国の学生は、積極的に質問をしてくれ、お床やお香について興味を持ってくれたよ



うでうれしく思いました。見ているだけではなく、自分でお茶を点ててみて、茶道について少し分かってもらえたのではないかと思います。授業が終わってからは、お互い日本語や韓国語で話し合い、分からぬところは英語を交えて話すなどしてとても楽しい体験でした」と話しました。

歓送会では、慶熙大生を代表して、パク スウェルさんが「2週間本当にありがとうございました。最初はちょっと心配でしたが、先生たちから本当に色々なことをしてもらって本当に心から感謝しています。機会があったらまた会いたいと思っています」と日本語で挨拶しました。

1月31日、慶熙大生たちは全員元気に秋田空港から帰国しました。



### 慶熙大学概要

1949年、2年制大学の新興初級大学を前身に、1954年大学院を設立。4大単科大学を持つ総合大学として発展してきた。水原キャンパスは1979年に、光陵キャンパスは1984年にそれぞれ設立。現在は26の単科大学・学部に約25,000人、大学院生も約8,000人が在学している。国際交流に関しては積極的で、世界約50カ国200箇所以上の大学・教育機関と友好関係を結んでいる。

# ノースアジア大学・秋田栄養短期大学卒業生の皆さんへ

## ■各種証明書発行の諸手続きについて

成績証明書、単位修得証明書、卒業証明書等は卒業後も必要となる場合があります。その場合、以下の方法で申請してください。  
なお、個人情報保護のため、電話での申請は受け付けできません。

窓口で	申請 受領	以下の書類を添えて申請してください。 ・証明書申込票（手数料分の本学証紙を貼付）・運転免許証等身分を証明できる書類 ※本人以外が申請する場合は委任状が必要です。
郵送で	申請 受領	受付から20分程度で発行可能です。窓口でお受け取りください。なお、証明書の種類によっては、当日発行が出来ない場合があります。後日の郵送も可能です。
電子メールで	申請 受領	以下の書類を添えて郵送してください。 ・証明書申込用紙（本学ホームページでダウンロード）・運転免許証等身分を証明できる書類のコピー
FAXで	申請 受領	受付の翌窓口取扱日に郵送いたします。なお、料金については、請求書を同封いたしますので、到着後1週間以内に指定の口座に振り込んでください。

### ノースアジア大学

- ◆窓口取扱い時間 [平常講義時] 月曜日～金曜日 8:30～18:00 [平常講義外] 月曜日～金曜日 8:30～17:00  
＊土・日・祝日・夏期／年末年始休業期間中を除く ＊窓口にお越しの際は事前にお問い合わせください。
- ◆問い合わせ先 〒010-8515 秋田県秋田市下北手桜守沢46-1 大学事務部教務課（大学係）  
Tel:018-836-1335 Fax:018-836-2485 Email : kyomu@nau.ac.jp

### 秋田栄養短期大学

- ◆窓口取扱い時間 月曜日～金曜日 8:30～17:00  
＊土・日・祝日・夏期／年末年始休業期間中を除く ＊窓口にお越しの際は事前にお問い合わせください。
- ◆問い合わせ先 〒010-8515 秋田県秋田市下北手桜守沢46-1 大学事務部教務課（短大係）  
Tel:018-836-1357 Fax:018-836-3374 Email : kyomuj@nau.ac.jp

# 秋田看護福祉大学卒業生の皆さんへ

## ■各種証明書発行の諸手続きについて

成績証明書、単位修得証明書、卒業証明書等は卒業後も必要となる場合があります。その場合、以下の方法で申請してください。  
なお、個人情報保護のため、電話での申請は受け付けできません。

窓口で	申請 受領	以下の書類を添えて申請してください。 ・証明書申込票（手数料分の本学証紙を貼付）・運転免許証等身分を証明できる書類 ※本人以外が申請する場合は委任状が必要です。
郵送で	申請 受領	受付の翌窓口取扱日の15時以降に窓口でお受け取りください。後日の郵送も可能です。
電子メールで	申請 受領	以下の書類を添えて郵送してください。 ・証明書申込用紙（本学ホームページでダウンロード）・運転免許証等身分を証明できる書類のコピー
FAXで	申請 受領	受付の翌窓口取扱日に郵送いたします。なお、料金については、請求書を同封いたしますので、到着後1週間以内に現金書留か郵便小為替で納入してください。

### 秋田看護福祉大学

- ◆窓口取扱い時間 [平常講義時] 月曜日～金曜日 8:30～18:10 [平常講義外] 月曜日～金曜日 8:30～17:10  
＊土・日・祝日・夏期／年末年始休業期間中を除く
- ◆問い合わせ先 〒017-0046 大館市清水2-3-4 秋田看護福祉大学 事務部学務課証明書発行担当  
Tel:0186-45-1720 Fax:0186-43-6711 Email : gakumu@well.ac.jp

# ノースアジア大学・秋田栄養短期大学・秋田看護福祉大学校友会

## ■校友会(卒業生)の皆様へ。校友会の活動については次のとおりです。

- ◆主要事業 ◎会員情報の管理・保管 ◎会報の発行 ◎母校(教育諸活動)の支援 ◎会員の慶弔 ◎総会・部会・支部会の開催

- ◆校友会活動についてのお問い合わせ・住所変更のご連絡は

校友会事務局(ノースアジア大学桜友会館内)

〒010-0058 秋田市下北手桜守沢21-9 Tel:018-836-6534(FAX兼) <月・水・金 10:00～16:00>